

育苗床におけるサツマイモ基腐病の種苗内の菌分布と苗消毒効果

基腐病は罹病した種イモから採苗した苗にも伝染し、苗の未発病部でも菌が検出されるが、適正な苗消毒で防除可能

背景・目的

- ・平成30年に鹿児島県サツマイモ産地で発生を確認したサツマイモ基腐病は伝染や防除法が不明
- ・育苗床における塊根(種イモ)や苗茎葉の部位別菌密度の把握が必要
- ・苗伝染を明らかにし、防除対策を早期に提示することが重要

成果の内容

- ・苗では未変色部からも基腐病菌が微量に検出される
- ・汚染苗を定植すると約1か月後にはすべての株が発病する
- ・ベンレート水和剤による苗消毒の効果は高い

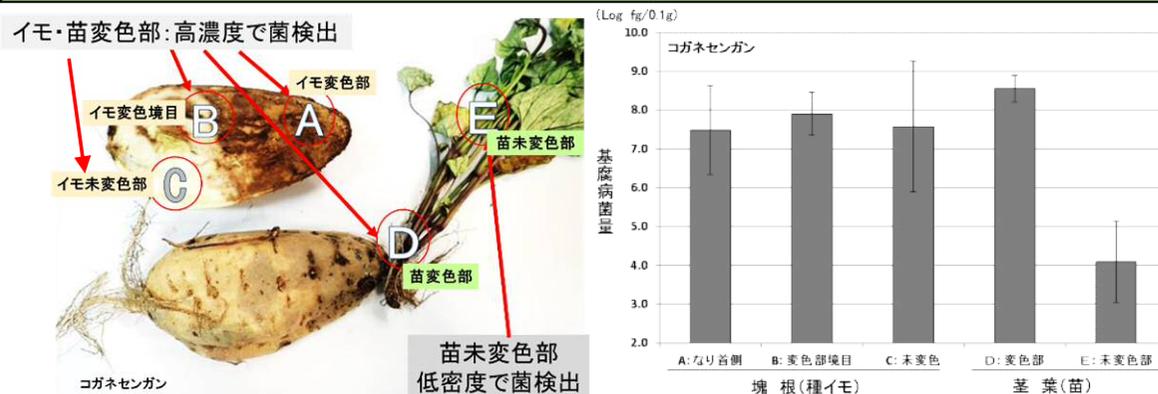


図1 育苗床の種イモおよび苗におけるサツマイモ基腐病菌量

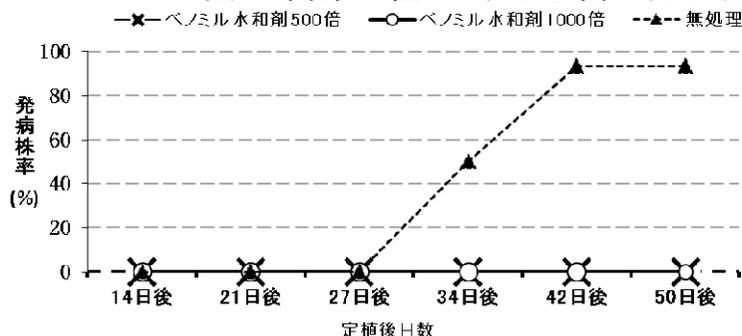


図2 サツマイモ基腐病に対するベンレート水和剤の防除効果

※これらの情報については下記の対策マニュアルを参照



期待される効果

- 苗消毒の徹底による
 - ・汚染苗の圃場への持ち込みの軽減
 - ・汚染苗の未発生地域への拡大防止

○普及対象・範囲 サツマイモ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
生産環境部病理昆虫研究室

(イノベーション創出強化研究推進事業(01020C))